

第2回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会 議事録

日 時：平成28年7月8日（金）午後1時30分
場 所：横芝光町町民会館 大ホール
事務局：産業振興課
コンサルタント会社：㈱オオバ
外部アドバイザー：㈱ちばぎん総合研究所

1. 開会

欠席（土屋歩委員）報告

2. 委員紹介

団体代表者の人事異動に伴う委員変更による委員紹介
（JA山武郡市やさいの里営農センター長 伊藤春生委員へ委嘱状の交付）

3. 委員長あいさつ

委員長：

皆様こんにちは。本日はご多忙の中、また猛暑の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。冒頭ですが、私から皆様方へお願いがございます。副委員長さんと事務局のご了解を頂きまして、今回、委員長あいさつの中で時間を頂き、私からの方針等を説明させていただきたいという旨でご了承いただきました。委員長あいさつという貴重な時間ではございますが、簡潔明瞭に方針を説明させていただきます。まず、第1点目でございますが、私の今までの経験の中で横芝光町の委員会、町議会の議事録等がなかなかございませんでした。これは必要不可欠なものでございます。そのため今回、皆さまのお手元に前回の議事録を送付させていただきました。そして、また、委員会公認の資料の事前配布であります。前回行った際、当日来ないと内容も分からないというような状況でした。このような理由から事前に勉強していただきたく、2、3日前までには資料の事前送付を行うこととしました。それと皆様方、どうしても欠席の場合がございます。その場合については、当然ながら意見書を出していただくことにより、欠席された場合でも会議に参加したとの位置づけをさせていただきます。皆様のご理解を頂きたいと思っております。この平成27年10月に策定されました産直交流施設の基本構想の結果を受けまして、私たち委員19名は具体的な形成に向けた基本計画の検討委員として最終的な建設の責務を負っているわけですので、自分の発言の要旨を議事録に残す。旭市の道の駅検討資料を見ますと、旭市のホームページにも記載されています。見ていただければお分かりのとおり細かく書かれています。そういったことから、今回の町検討委員会も公表していきたいと考えますのでご理解いただきたいと思います。そして、その進捗状況につきましては、すでに町民にご覧いただき、様々な町民の意見もお聞きする場もなかろうかと思っておりますので、ホームページで公開するというような方針を出させていただきます。さらに、コンサルタントのオオバから盛りだくさんの資料を提示していただいても、これを1言1句見るには2時間程度の会議では非常に難しいと思われまます。そのため、今回、この会議室を使用したのも、パワーポイントを使って説明していただくという手法を取り入れました。そして、第2点目でございますが、検討委員会の実際の進行であります。委員長が議長役としての職務ですので、なるべく発言は控えさせていただきますが、その分、副委員長さんにおかれましては、皆さま方の意見を聞きながら毎回

開催する委員会の最後に取りまとめ役といった形で携わっていただきたく、副委員長にも次回からは是非、この脇で一緒に席を設けていただきまして、委員長、副委員長の相互理解のもとで会議を進めていきたいと考えていますので、ご理解いただきたく思います。次に私からの資料の提案でございます。皆様のお手元に「道の駅等の組織及び25年度の実績」及び「道の駅のしくみと重点、道の駅のメリット」という私自身が作った資料をお配りいたしました。近隣市町の2年前の産直施設の状況です。第3セクターにおいては、全て経営状況を議会に報告することが義務付けられています。それをもとに私なりに作ったものです。この中で言いたことは何かと言うと、前回申しましたが、オオバさんの作った資料の中に集客数とか入れ込み数という言葉が入っていました。これについては、いろいろな方法があり、この資料に「ふれあいパーク八日市場」の集客数の算出とありますが、レジ客数掛ける最高が3.0、要するにレジを通過したお客につきましては、最小のほうの換算で行きますとレジが4つあれば4つで3,000人来た。ただし、その中で例えば1人で4つのレジを通過する場合もありますけど、いずれにせよ、レジ客数、大体客単価は1,000円程度です。こういった計算ができます。これからの実際の運営の資料として参考にしていただければと思います。また、裏面の「道の駅のしくみと重点、道の駅のメリット」ですが、道の駅の登録につきましては、この要件を満たせば途中からでも「道の駅」に登録することができるという資料です。この委員会でありまして、前回、副委員長が示したとおり、構想の決定に基づき具体的な案を出し合って進めていきたいと思っておりますので、ご理解いただければ幸いです。いろいろ申しましたが、貴重な時間をいただき、また、委員長の提言とさせていただきまして感謝申し上げます。以上を持ちまして私の委員長のあいさつとさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

4. 議事

(1) 基本計画策定スケジュール

(2) 主な意見と対応方針

(3) コンセプトの見直し

(4) 施設計画

(1)～(4) (株)オオバによる資料説明

(5) 意見交換

委員長：

約1時間程度、質疑時間を設けたいと思います。いかがでしょうか。

委員：

先に資料をいただいて見させてもらったけど、あまりにも恰好が良すぎて、ただ字を入れ替えた本当に机上のコンセプトに思えます。コンセプトというのは、「何故ここに産直施設を造らないといけないのか」、そういうところから考えないとまずいと言うか、そういうのがあって初めて施設ができると思います。これはあまりにも恰好つけた感じと言うと失礼ですけど、このコンセプトでは、何故ここに産直交流施設を造るかが何も見えてこないです。実際、私も農家ですけど、以前からこの場所に農産物の直売所を造るとかいろいろ話が出ていますが、その前に、「農家の人たちがこの場所で野菜を売りたいのか。町民の人がここで買い物をしたいのか」ということが大事じゃないかと思っています。この場所に造ることが前提で話が進んでいて、せっかく税金を投入するにあたってどうなのかなと感じられます。それだったら、既存の直

売所を直し、そこに町民がくつろげるような休憩場所を新たに設置した方が良いのではないかと私は思っております。

委員長：

委員さんから質問がありましたが、これについては事務局にお伺いしたいのですが、あくまでも産直交流施設の基本構想というのが前提であり、この基本計画を策定していくものと思いますが、事務局で詳細な回答ができますか。

事務局：

何故必要な施設なのかは、第1回の検討委員会で説明したことですが、高台においては借景をしながら。まず、横芝光町に多くのお客様を呼びたい。そして、この坂田池公園全体には年間5万人以上の集客があるため、この場所に必要な施設として考えております。例えば、南房総市の枇杷倶楽部のように山風景からもイメージして、坂田池公園の中にこのような施設を立ち上げることで、都会からのお客様を呼び込み、そして、横芝光町が生産する農産物を買っていただき、横芝光町を売り込みたいと考えております。以上です。

委員長：

つけ加えさせていただきます。平成27年10月にできました基本構想の中にこの場所を原点として設立しようとする中で、前回、副委員長さんが提案しましたが、「この場所で検討しましょう」という意見がありました。それでよろしいですか。

委員：

第1回目の会議も設立の是か非かを全然検討されないで、「造るという前提で考えてください」という会議でした。だから結局、自分たちのように発言力というか、皆さんの前でしゃべる力のない人間からすると、設立の方向の流れの中で委員会が進んでしまっている。今回の会議もそうですが、実際、ここにいる人間が全員この計画に対して賛成しているかどうか分かりかねます。賛成している人間だけが集まっているわけじゃないと思います。だからその辺、委託会社のオオバさんがここまで計画を立てて資料を用意していますけど、本当は設立の是か非かを考えなければいけないのではと私は考えておりますがいかがでしょうか。

委員長：

私の理解では、この件について議会推薦の委員さんもいらっしゃいますが、基本構想により坂田池公園北端部に建設するための委員会を設置し、その中での基本計画策定の委員会だと思っております。議員の皆さん、議会でも把握していると思っておりますが、発言していただいてよろしいですか。よろしく申し上げます。

委員：

今の質問から話が変わりますが、私が今、オオバからの提案説明を聞いた中では、設置場所が坂田池公園だけでなく民地の取得も含めた建設計画の説明だったと思われれます。民地を買収して建設計画を進めていくというように私は受け止めましたが、その辺はどうなのでしょう。

事務局：

遊具のある坂田池公園内の場所に施設を設置する際、今おっしゃった駐車場の配置

をどうすべきかを検討した中で、なるべくなら芝生広場を減らさない方向で設置したいと考えております。その為の民地の活用を必要とした配置計画でございます。これはあくまでも設置計画案ですので、もし、この案で委員みなさんからのご理解がいただけるのであれば、今後、徐々に交渉に入っていきたいと考えております。

委員長：

この件につきましては、設置に向け前向きな検討をしていきたいと思っております。また、敷地内にある既存の建物を残したいということになれば、例えば、古民家カフェのように既存の建築物を利用しながら工夫ができると考えられます。さて、本題である委員の質問に対する設置の是非かという問題について、どなたか議会代表の委員の方で回答できますか。

委員：

議会としてお話をさせていただきます。よろしくお願いたします。議会では、先ほど委員長からお話がありましたように、昨年度の3月に基本構想策定の冊子をいただきました。この方針に基づき、現在、基本計画が議論されていると思っております。また、この基本構想をもとに議会からは基本計画策定が進むという方向性で平成31年度に向けて開設するという説明も受けております。今、議題になっている「この事業をやるのか、やらないのか」というお話しですけれども、この委員会は、基本計画を策定し開設に向けての準備段階であります。ですから、この計画をどのように検討していくかが本題であり、どのような施設を建設していくべきかを考える会議であることをご理解いただきたいと思います。前回の会議では、委員長から「特色ある施設を委員皆さんの英知を絞って前向きに考えていきましょう」との説明をいただきました。ですから、コンパクトですばらしい施設をみんなで前向きに考える会議だと私は理解しております。このことを十分ご理解いただきながら議論を進めるべきだと考えております。いかがでしょうか。

委員長：

今、委員からご報告がありました。まずは基本計画を策定し、産直交流施設の建設を推進する考えで委員のみなさん全員のご理解をいただきたい。よろしいでしょうか。

委員：

いや。

委員長：

納得がいかないという事ですか。

委員：

自分は2箇所の直売所に携わっていますが、実際、このような施設を造るのであれば利益を出さなければならぬ。その利益を生み出すのはどれだけ困難で、農産物を集めるのはどれだけ容易でないことか。地元の農家がどの位その場所で野菜を売りたいのかということを考えた場合に、新しい農産物直売所は必要ないのではないかと思います。現在、産業振興課においても大規模農家を推進しているところに小規模な直売所で野菜を売りたいという人たちが何人出てくるのか。こうした将来を見据えた時に、今更農産物直売所はないだろうと思う。匝瑳市の「匝りの里」を見れば分かると

おり、立派な施設でありながら地元の野菜の仕入れ状態が悪く、経営状態がよろしくない。同じことになってしまうのではないかと考えています。今、光直売所もぎりぎりの線で経営していて、地元野菜が無い時は、他市町の野菜を仕入れて売り出している。「野菜を買うならスーパーでもいいのでは」というような感じになっているのです。ですから、産直施設を造るのであれば真剣に考えなければなりません。自分も坂田池公園を良くしたいとは実際に思っているが、安易な気持ちで考えてほしくないことが一番の根底にある。自分は坂田池公園に施設ができてしまうと、光直売所の利益が落ちてしまうからとか僻み根性で言っているわけではなく、町の税金を投入して設立するので、それなりの責任を持って考えなければいけないと思っている。「もし失敗した場合に、ここにいる委員全員が自腹を切れるのか。」「失敗した場合、町長をはじめとして議員全員が自腹を切れるのか。」だから、自分は断固とした覚悟がなければ建設してはならないことだと思っている。実際、光直売所の場合は、今の店長をはじめ3人が100万円ずつ出しあって協力しているのが現状で、そのくらいの覚悟をもって取り組んでおり、いざという時には皆で協力しなければならない。だから自分は失敗した場合に誰一人懐を痛めず、失敗したら解散しようとなってしまうことを恐れ、このような発言をさせていただいている。

委員長：

今、委員からお話しを伺った意見を活かしながら基本計画を策定し設立の推進をしていきたいと思えます。私が示した資料は、あくまでも参考資料として活用して頂ければと思います。委員の意見を今後の参考として考えていきましょう。「設立に対する検討委員会であることを第一にみなさんで考える」ということでよろしいでしょうか。それでは次の質問に移らせていただきます。

委員：

前回の委員会でいろいろと質問させていただきましたが、私も同じ農業者ですから今の委員の気持ちも理解できます。これからどのような方向性で進んでいくべきかを考えた時に、坂田池公園にみなさんが集まれる場所にしたいという考えがあり、私自身はこの場所に産直交流の直売所を造るというのもすごく大切だと感じています。坂田池公園の状況を思い描いた時、周遊コース、それから景観、本当に何物にも代えることができない施設だと思います。最初は、「これはだめだからもうやめよう」と諦められた後の施設が頭の中に浮かびすごく不安でしたけれども、前回の委員会で説明を受けた時に、一番コンパクトにできる気持ちの良い場所なのではないかと思直しました。一番利用価値のある施設だと思います。四季を通じた梅、桜、つつじ、週末に聞こえる子供たちの清々しい声、そうしたものを通じすばらしい施設になると思っております。また、安全面を考えた場合、私有地を利用し駐車場を建設した方がよろしいかと思えます。以上です。

委員長：

ありがとうございます。道の駅を造るとなると、9、10億円かかる話が先行しております。実際、近隣市町の道の駅建設にかかった費用は、確かに9、10億円あります。その中で横芝光町は、基本構想の中で位置づけられた坂田池公園施設を有効に活用するための基本計画を策定し、委員さんが言ったようにコンパクトな公園、一体型の施設にするのかを検討するのがこの委員会の主旨であります。非常にいい提案だと思います。他にご意見いかがですか。

委員：

現在、私有地を駐車場にした方が良いのではとの意見が出ておりますが、先ほどパワーポイントで見たように、私有地の中には非常に立派な建物があります。私は中を覗いたことはありませんが、外からはよく拝見しています。坪数はいくらあるか分かりませんが、例えば、この民家を改造して民泊じゃありませんけれども、簡単な施設的なものにしてはと思います。何も壊すだけが能じゃないような気がします。例えば、1階をレストランにして2階も使うとかですね。あの建物に関してお考えがあるのかを伺いたしたいと思います。

委員長：

オオバさんお願いします。

コンサル会社 オオバ：

私も中を見たことがありませんし、どれだけ老朽しているかも分かりません。まず、A案は公園との連携、交通安全を優先した案ですので、その建物自体を使用しない前提であります。B案については、駐車場の位置が変わってきますので、今の民地の中に建物を配置していく形となり自由度がかなりありますので、今の建物を利用することも考えられます。しかし、ここで一番大切なのは、やはり一般車両ではなく大型観光バスの駐車スペースを考えた時に前後にかなりの道幅がないと回転ができないので、うまく迂回できるかが問題になるかと思われれます。今日の議論を踏まえて細かくチェックさせていただき、もう一度考えたいと思います。

委員：

よろしいでしょうか。皆様方に申し上げますが、委員皆さんの自由な意見を伺うため、今回の会議において委員長、副委員長、事務局、オオバによる事前打合せを行っておりません。さて、話は変わりますが、前回の会議の意見で出ましたコンセプトの「城山の里祭り」という言葉が良くない、また、「城下町」という感じではないとの意見がありましたが、今回、前回の意見に沿ってオオバさんが、「かんようで紡ぐ」をキーワードに「横芝光町の収穫祭広場」という新しいコンセプトを提案してきました。皆さんいかがでしょうか。

アドバイザー：

何点か意見があります。コンセプトについては、前回の会議で基本構想から大分変わってしまったことを発言させていただき、今回、その辺の見直しの経過を説明されていましたが、新しいコンセプトを見させていただいた中で、先ほど委員さんがおっしゃったことも分からないではないなという気がしました。「収穫祭」という単語については、やはり産直交流施設ですから、収穫祭という言葉は良いと思いますが、地元の方がどんなイメージを持っていて、どんな形で農作物を取り扱っていくのか。収穫祭というからには多種多様な野菜とか果物、そういうものが出てくるイメージがありますけれども、果たして実際はどうかというところに少し疑問を感じさせられます。「かんようで紡ぐ」という言葉も言われれば、「ああ、そうなのか」と思いますが、かんようという言葉自体があまりピンと来ないなというのが率直に感じたところでございます。私も先ほどの委員さんの話を考えながら皆さんの意見を聞いていましたけれども、本当に昨年からずっと申し上げていますが、何といえよいいのか、「統一感」を持ってしっかり進んでいくべきだと考えております。「施設ができました。しかし、誰も野菜を置きません」となれば、農産物直売所自

体がおかしくなってしまいますので、そこは町役場と農業経営者との意見交換とか合意形成が欠かせなくなるものだと思います。最近、既存の公園施設を利用した道の駅も増えており、栃木県茂木も確かそうだと思いますが、坂田池公園と同じく来客数を見込めるメリットがあります。今まで来ていた人が「より楽しく。より長く。よりお金を落とす。」という仕組みがあると思います。そういう部分では、いわゆる農産物直売所と言えば集客の種と考えられますが、坂田池公園周辺の施設設立に対しこの機能はあまり必要ないのかなと思っております。例えば、公園を見てゆっくりする人が夕飯の野菜をあまり買うとは思いません。例えば、若葉区に芝桜がきれいな公園がありますが、そこには3、4種類ぐらいの採れたての野菜を置いているだけですが、種類が全然なくても相当売れております。ですから、公園に来る人たちの需要を満たすということであれば、いろんな野菜をわざわざ他市町から仕入れる必要がなく、むしろ売りたい人が置けるような形であれば、それはそれでニーズに対応しており、その部分をしっかり農業経営者の方々と話し合われることが大事ではないかと感じております。また、郷土レストランは非常に重要だと思っており、人を呼ぶ場合、野菜を買うために人は来ないけれども、「これはうまいぞ」と思ったものだったらどこからでも人は集まります。もちろん、梅を見るだとか、公園自体も目的の1つですが、やはり、郷土レストランにおいては来客数を見込める施設だと思います。もし、郷土レストランにどれだけの地元の人、地元の食材、いろんな地元の歴史なんかを盛り込んだものを置けるかというところが最重要ではないかと考えています。最後に、この計画を進めるうえでA案とB案を皆さんから決を取るイメージなのですか、その辺が分からなかったので教えていただければと思います。

事務局：

A案、B案どちらが良いか決を取るということではなく、5ページに書いてありますようにイメージ的にはA案の方が良いのではないかと考えておりますが、対案としてもう一案を提示させていただきました。

委員長：

アドバイザーから色々な発言をいただきました。前回の会議でも食という面でご意見を頂きました。坂田城跡の梅を使った日本酒の梅酒ができるということです。そうした期待の中で、やはり、コンセプトの中にある坂田城跡という言葉が必要であろうとの意見も様々なところから聞こえてきます。「城山の里祭り」から「横芝光の収穫祭広場」でいいのかということになります。いかがでしょうか。事務局ではどうお考えでしたか。

事務局：

「城山」では坂田の旧名といいますか、町内では馴染みが少ないだろうと思ひ、町全体の横芝光でいいのではないかと考えたうえでこのようなタイトルに変更しました。

委員長：

何かご意見ありますか。このまま横芝光の収穫祭広場で決定してよろしいですか。

委員：

前回の会議は、他の公務により私は欠席し代理出席対応で、後で資料と議事録を見

させていただいた中で気づいた点があります。一つ目は、コンセプトで坂田城跡の話をしていますが、私は城跡の内容ではなく、梅だと思えます。この表現でいつも城跡と言われるけれども、坂田城跡で実際見るものがあるかということと全くなくて、話題に出てくるのは「梅の花」です。それから梅の果実というのが中心なので、城跡を前面に出すのか、千葉県最大級の梅林を前面に出すのが重要で、資料でもやはり四季折々の花を取り上げていますし、その辺を見直してもいいのではないかと思います。二つ目は、前回の資料の9ページに「日常利便機能：街の元気を作り出す機能」で、「販売環境は、祭り囃子や人々の掛け声など、自然と聞こえてくる様な活気あふれる環境」という表現をされていますが、「公園に来て、くつろいで、花壇だとか鳥を見ながらリラックスして歩く」という環境イメージと、「活気あふれる祭り囃子」というイメージが本当に一致するのかが前回の資料を見て疑問に感じました。「祭り」と「公園」という2つのイメージが相反しているような感じがします。三つ目は、前回の資料でもいろいろ書かれていましたが、四季折々の4万本を超える桜やつつじ、ハナミズキなどの樹木とかそういったものが書かれているので、それを前面に出し、城跡ではなくて千葉県最大級の梅林でコンセプトを考えてみた方がよろしいかと思います。実際、城跡でコンセプトを考えるとしたら、それを見せる工夫が必要だし、工夫できるかと言うと、空堀があるけれど空堀だということも案内人をつけなければ気が付かなく非常に難しいと思えます。梨畑と梅畑のイメージをもう一度取り直しコンセプトを考える必要があるのではないかと感じました。以上です。

委員長：

ご意見ありがとうございました。「梅林を活かしたコンセプトを考えよう」という提案でございました。委員いかがですか。坂田池公園に産直施設を造るとしたら、どういったコンセプトが良いのかお考えをお聞かせください。

委員：

まず、コンセプトの話ですけども、「かんようで紡ぐ施設づくり」、この一節は知らない。「横芝光の収穫祭広場」の一言でいいのではないのか。一番上の「かんよう」という言葉は私、大好きな言葉ですけども、余計イメージが伝わり難くなるような気がしています。それと、今まで皆さんの議論を聞かせていただき、産直交流施設に「誰を集めるか」という話ですが、どういう人たちをターゲットにするかという話の中で、これだけのいい自然がある場所に都心の人たちが来て、もしかすると移住者が増えるのではないかというような直感が致しました。産直施設に買い物に来るのではなく、こういったところに住み、公園に遊びに来てジョギングをしたり、カフェで休憩するとかということになれば、横芝光町の魅力、ゆったりできるようなそういうコンセプトもあるのではないかなと思えます。いわゆる産直交流施設というだけでなく、新しいターゲットにつながるような感じがしております。

委員長：

ありがとうございます。産直交流施設だけに特化しないで、例えば、産業振興、地域福祉、地域防災だとか多面的な部門で考える必要があるのではないかと言うことですね。委員から基本計画のコンセプトについて何かございますか。

委員：

今、委員の意見やアドバイザーが意見されたところが基本ではないかと思います。やはり、このコンセプトでの産直交流施設では横芝光町のビジョンの中でどういう位

置づけにしていきたいのかよく見えない。最初に委員がおっしゃったとおり、何か物を売るだけの場所みたいなイメージが強く感じられる。基本構想時に委員みなさんでお話しされた時には、産直交流施設というのもあったけれども、文化、それから色々な二次加工されたもの、そういった自然だとか、そういうものもひっくるめてここでうまく使って行こうというような話だったことを覚えております。私は県の観光物産協会の職員の立場でお話しさせていただきますが、お客さんが何でここへ来てくれるのかと言ったら、ターゲットをしっかりと捉えながら、地元の人たちがどのように施設を活用すべきなのかが上手にマッチングしないと、片輪だけでは上手くいかないし長続きしません。交流施設として最初にびっくりするような建物を造り、それから少しずつガレージみたいな形にして、もう少しそれについてはガレージ規模を少し小さくしながら機能性の高いものにしたらどうでしょうか。例えば、銚子市の軽トラ市のような形で、ある特定日にはこっちでやりましょう。その時は当然、ホームページ等で県外、町外のお客さんにお知らせする。そのようなことをしながら盛り立てていくというようなやり方もあるのではないかと思います。町の財政事情も考慮しながら、地元の人たちの使い勝手の良さとお客さんが来て使い易いという両面から捉えていけば良い訳です。私は坂田池がとても好きで、子供が小さい時から桜を見にきては和ませていただきました。スポーツ施設もあり、何というか、ヘルスリゾート的空間、そんな感じが好きです。また、近くに貸農園みたいなものがあれば、定住、移住の前段として都市部からクラインガーデンじゃないですけども、そこを活用していただいて、そういう人が地元の物をみんな買っていきますので、そんなところまで目を広げながらこの場所を考えていけば良いのではという気がします。その方がこの町の特性からして、例えば、枇杷倶楽部のようなものをここに造ったとしてネギクラブのようにはなかなかありません。やはり、この町の特性である古い文化、先ほどお話がありました梅林、その梅で今、梅酒を作ろうというような流がある。そのようなことをミクシングしながら情報発信して品ぞろえを考え、その中で地元の野菜等を売ることも一つの考えだと思います。アドバイザーから以前、お話があったように、食というのは観光で必要不可欠なもので、埼玉の深谷ではネギを焼いて食べさせるだけでも大きい観光資源になっております。工夫次第でもっと魅力のあるものができるかなと思います。もっと皆さん方が、「地元にあるものを使ってこんなことできない。こんなことできるか。」とコンサルにどんどん課題をぶつけ、それをクリアしていってもらえるようなやり方をしたほうが良いのかなと思います。良いか悪いかの二者選択は何の成果も生みません。この間、EUのイギリスの離脱じゃないですが、結局とんでもないことになります。そうではなく、皆さん方が議論し尽くして色々なアイデアを出し、その積み重ねが良いものを産みだすように思われますので、話がまとまらなくなってしまいましたけど、もっと委員皆さんから色々な意見を出していただければ有難いと思います。

委員長：

非常に良い意見をありがとうございます。先ほど委員もおっしゃっていましたが、どうしても産直交流施設で野菜だけを売るとなると難しいと思います。地方移住促進、観光、地域福祉、インバウンドを考えながら、産直施設だけに拘らず色々な面で日常的な施設ということも私も考えるべきだと思います。今、委員から「みんなで意見を出しましょう」というお話がございましたので、私の提案で大変申し訳ございませんが、これからマイクを回しますので、委員からそれぞれ3分程度皆さんの意見を頂戴したいと思います。

委員：

最初に意見させていただきますが、野菜については全く分からないので大変恐縮ですけれども、私は横芝で生まれて横芝で育ちましたので、あの周辺はとにかく坂田池という地名なのです。例えば、鋸南町の道の駅のようにそのまま保田小学校という名前を使用しているところもあるし、無理に城跡を強調しなくても良いのではないかと思います。純粹に坂田池という言葉コンセプトを組み込めば良いのではないかと考えます。現在、公園に来られる方々は運動も含めて、ゆったりと訪れる方々もいらっしゃいますので、産直に重点を置くということではなく、様々な要素で坂田池公園に寄っていただいた時に品物を買っていただくことが理想だと思います。以上です。

委員：

私もコンセプトについては委員と同じ考え方で、坂田池という地名を入れたほうが良いかと思ったり、それと、A案またはB案と提案するのではなく、委員で意見を出し合いみんなで決定し納得していくことが重要かと思われま。また個人的な意見ですが、町外の多くの方々が栗山川に釣りに来ているのが見受けま。海岸でサーフィンをするお客さんも多いので、ある意味アプローチの方法としては、このような若い人たちを通じSNSなどで情報が広がっていくので、何かこのような方々にアプローチできる施設を設ければよろしいかと思ったり。その辺を考慮していただければと思ったり。以上です。

委員：

私からは、横芝光町で立地や環境等を考えた中で坂田池公園が最適な場所ではないか感じております。そうした中で、先ほど意見がありましたけれども、今回の設定場所についてA案B案を皆さんにたたき台という形でお示したかと思ったりしますが、このような形で詰めていかないと、「どういうレイアウトで、どのような規模で建設するのか」先に進まないし、最終的には金額が一番の問題になりますので重要かと思われま。また、千葉県が計画している国道と大総新道を結ぶ横芝下総線の未開通部分の道路の早期開通が重要であるかと思われま。それと、個人的な意見ですが、坂田城跡のある城山に火の見櫓でもあるとかなり景観が良くなるのではかと思われま。以上であります。

委員：

コンセプトとですけれども、どうしても狭いイメージで考えているような気がしま。前回の会議で将来的には横芝光インター周辺に道の駅建設計画のお話が出て、それだったら坂田池建設計画は必要ないのではかの意見をお持ちの方がいるかと思われま。そうではなく、10年、20年先を考えた時にすごく坂田池周辺の雰囲気は良くすばらしい場所だかと思われま。坂田池周辺という狭い感じに捉えず、国道から上の旧横芝地区の広いイメージ、全体を活性化させる拠点のようなものを造るといったようなコンセプトを考えていった方が良いのではないかかと思われま。以上です。

委員：

個人的な話になりますが、私が子供の頃には坂田池は整備されておらず汚い池でした。しかし、現在、これだけの公園、スポーツ施設が整備され立派な施設となり、ここに人を呼ばない手はないかと思われま。初めは産直交流施設ということで、農産物を売るだけの施設かと思われま。みなさんの意見を聞き、既存の公

園施設を生かし、都会からリラックスを求めて来た方に地産のものをアピールできることは素晴らしいことだと思います。採算を考えると難しいことだとは思いますが、この公園を活かしリピーターが何度も訪れるような施設になってほしいと思います。また、A案B案ありますけども、この場所は国道からも離れていることから、横芝下総線バイパスの早期開通、交通網の整備を望んでおります。また、委員さんが言ったように農家側としても作る作物は大体決まっているし、多種多品目を栽培することは難しいですので、年間を通じ野菜等を陳列することはできないと思います。目玉商品を作るために他から仕入れたのでは本当にスーパーになりかねないので、私も既存の公園を上手に生かし、都会からの集客を見込める交流施設の建設がよろしいかと思えます。

委員：

坂田城址の梅林と坂田池公園を直接結ぶ新道が必要だと思います。現在、坂田城址の裏側からしか車両交通ができない状態ですので、森林の伐採等難しいとは思われますが、お客さまを案内するにも現状では説明し難いところがあり、また、坂田池がきれいに一望できることは素敵だと思いますのでご検討をお願いいたします。それと産直施設の関係で光地区の方は経験者が多いと思いますが、山武地区である旧横芝地区の農業者というのはそういう経験が少ないと思いますので、やさいの里営農センター所長さんもいらっしゃいますので、色々な意見をお聞きしながら参考とし、意識面を変えていく必要があると思います。以上です。

委員：

皆さん本当に良い意見をたくさん出していますが、私も最初は産直と言ったら販売の方に重点をおいていました。坂田池公園に皆さんの意見のような施設が建設されると色々なイメージが広がります。私には孫が2人いまして、匝瑳市役所の近隣に住んでいます。市役所に公園施設ができてすごく娘が喜んでおります。ですから、坂田にもそのような施設ができればすごく夢が広がるような気がします。産直施設において利益を生まないといけないことから産直販売の仕組みももちろん大事ですが、近隣に老人ホーム施設もありますので、そのような場所にみんなが集まり、そして楽しめるそういった施設ができれば本当に素敵な町になると思います。以上です。

委員：

私もコーヒー1本で、のどかな雰囲気にくつろげる坂田池公園が大好きですので、今更、反対とは言いません。基本構想時に「例えば、このような施設を造るとしたらどの場所が良いですか。そこを考えてください」と問われた時に、やはり最初に坂田池公園が浮かびました。「あそこは何もなくともよい、くつろげる」という意味ではコンセプトとして、今回の「収穫祭」よりも前回提示された「城山の里」の方がすごく自分のイメージの中では良いと思うし、何万人の来客が訪れ、先ほど委員がおっしゃっていましたが、「地元の人たちが立ち寄り施設」、それがすごく大事だと思います。そこから始めるべきだと思いますので、無理な施設を建てないでフリーマーケット等が何時でもできるような広い場所を確保すれば、野菜を置くことができ、建設資金もかからないと思います。そのようなことから、やはり「城山の里」というコンセプトを大事にしたいと思います。

アドバイザー：

私から2点程話させていただきます。まず、資料の4ページの分棟型という説明が

ありましたが、私のイメージでは分棟型と言うと少し間隔を離し設置するのかなと思ったのですが、実際、資料を見ると坂田池公園の回遊性を高めるために、かなり離れた場所にも設置するとなると斬新というか、珍しいというか、道の駅を訪れる人たちは目に見える範囲だけにあるものと思っているので、坂田池公園の回遊性を高めるために上手に配置するということはとても面白いと思います。そこで、重要になるのはどれだけ回遊性を高めながら情報発信、言わば案内を効果的にするのかは後の課題だと考えますが、とても良い提案だと思います。また、コンテナ使用によるコンパクトな施設であるため、非常に今の時代に沿っていると思いますし、このような視点で収益性という部分でのハードルが下がると思われますので非常によろしいかと思えます。2点目に関しては、みんなが発表できるステージ的な集会所施設の設置です。例えば、子供たちのダンス、フラダンス等の文化活動されている高齢者の方々、ヨガを楽しむ若い女性も増えておりますので、町民の発表の場としてステージ的な施設を設置しても良いのかなと思います。例えば、子供の発表があれば親は当然来ますし、おじいちゃん、おばあちゃんも来ます。いろんな方がこの場に来て交流が生まれ、また、そこで買い物や食事をする人たちが増えます。そのため、ステージ的な集会所施設があるといいのかなあと思いました。はすぬまの道の駅もお祭りのイベントの他、小さな団体の発表会など毎日ではないが多くのイベントを行っており、そういうところから集客につなげているという事例もありますので、参考にさせていただきたいと思えます。

委員長：

ありがとうございます。それでは、こちら側は委員さんから意見ををお願いします。

委員：

まずは、今ある財産を活用したら一番いいのかなと思います。ひとつは、坂田梅林がありますので、「梅の木オーナー制度」という形で売り出しをしていく。そうすることによって時季的な花見、また、梅の実の収穫時にそれを加工するために、年に何度か訪れるような機会ができる。聞くところによりますと、梅の生産者も大部分の方が歳をとって維持していくのが大変だと聞いておりますので、もしかすると、梅の木を管理する方々が出てくるかもしれません。また、田園も広がり、近くに農協のライスセンターもありますので、「お米の田んぼオーナー制度」もできるのではないかと思います。それから、坂田池公園につきましては、子供よりどちらかと言うとシニア層の利用が非常に多いのではないかと思います。いわゆる定年退職になったシニア層の人たちがゆっくり集まれる場所は売り上げが伸びているとの話も聞きますので、シニア層をターゲットとしたお店や加工場、郷土料理店があれば一番いいのかなと考えます。例えば、四国のスーパーだったかと思いますが、「おはぎ」が名物で開店前から行列ができるお店もありますので、そのような新しいものをひとつ見つけるのも大事かと思われまます。また、現在、農協でも地域振興計画を進めており、農協と言うと農家のプロだけが関係するようなどころだと思われがちですが、そうではなく、さっき言った定年退職されたシニア層の方々に対して農業塾みたいなものを開き、「始めは少しの野菜から作りませんか」と呼びかけ、徐々に大きくなったら「野菜を直売店で売りませんか」ということを売り込む計画を進めております。産直交流施設立ち上げに何かお手伝いできるようなことがあったら、これを取り入れていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。以上です。

委員：

お疲れ様です。初回の会議の後、本店にこの内容を報告書として提出させていただきました。その際に、本店の役員会からの回答としては、「なぜ今頃、なぜあの場所だ」ということを問われました。また、農協に対して出資のお願いが来るのかという話も出ました。次回以降の会議でそれを報告しますということで回答させていただいたのですが、やはり本店でも感じていることは、この計画は道の駅にしても「見る限り農産物の直売所、それと食堂、あとトイレ」という風なイメージにしか思っていないことが現状です。このコンセプトを見ると非常に地元の人口を増やそうとか流出を防ごうとかをお考えですが、そこをどうやってつなげていくのかが非常に難しい問題だと思います。ここにいる委員の皆さん、私もその1人ですけど、この計画を任された中ですごく不安を感じています。例えば、資料の4ページにある配置計画表ですが、せっかく絵を描いていただいています、これを見ると全て△と○で区切られていてこの分棟型が一番良く、これでやるしかないみたいにも取れるというのが現状です。例えば、先ほど委員がおっしゃいましたが、何を造るのかと言うよりも、物を建てるのであれば何を入れるのかがスタートじゃないかなというような気がします。その辺を十分検討しなければならないと考えます。また、質問があるのですが、すべての案に記載している農水産物加工場ですけど、「何を作ろうとする工場」なのか質問したいと考えていました。いずれにしても、非常に申し訳ないが、立派に描いているが、データを見ると農業関係のデータが10年前のもので、今の農業情勢は非常に目まぐるしく変わっていますから検討するにあたり、この古いデータを参考にしてしまうのは如何なものかと感じました。まとめませんが以上です。

委員：

ありがとうございます。確かに資料でお示しする判定材料の○、×、△というのはあまり良い表現ではなく、この計画で決まってしまうがちな事務局、オオバの主導型という面がありますから、この点は気をつけて考えていきたいと思います。

委員：

皆さん、ご苦労様です。「今日はマイクを持ちたくなかったな」というのが正直なところであります。私の周りの方々から「何故、今ごろ」という声が非常に多い中で、「では何故」委員としてここにいるのかという複雑な思いもありますけれども、議会代表として委員に選出され、また、この会議に参加している以上は多くの委員さんの意見を自分の頭で集約し説明しながら、町民の皆さんお一人お一人に「あんなことを言ってしまったけれども、本当にいいものができて良かった。ありがとう」と言っていたものを造らなければ正直やる意味がないと思っております。まず、この資料を事前にいただきましたが、前回の会議で私が質問したことをそれぞれ答弁として書いてありますが、議会に通っていない中で公に民地買収を計画に入れてしまい、買収金額も分からない中で話を進めてしまうのは如何なものかと思えます。もし、万が一買収できなかった場合には、話が堂々巡りとなり計画が先に進みません。その中で、本日、委員がおっしゃった「定住促進の予感」ということですが、坂田池公園を利用した施設が「憩いの場になるのかな」と想像し夢が膨らみました。そういった部分では私の心の中の雲が晴れ間に変わってきたような気がします。いずれにしても、多くの町民の皆さんから「よかったね」と言っていたものを造らなければならぬと私は思っています。

副委員長：

私からは、委員皆さんで検討しています「本当に夢のある町」として、今までは「産直、産直」と言っているだけで農業市をやるだけの話かなと思いましたが、多面的な活用方法を考えていこうという新しい提案がございました。委員からお話しされたヘルスリゾートも坂田池の散策コースを利用した素晴らしい提案ですし、みんなで考えればもっと特色のある施設が出来るのではないかと思うほど、非常に意義のある委員会になってきたのではないかと思います。そこで、私から事務局にお願いしたいことがあります。会議を開催している以上は、テーマが有り、議論し、結論が出なければ意味がありません。そのような中で、委員皆さんが自由に意見できる委員会にしたいと考えております。お願いします。そして、コンセプトについてですが、当然、坂田城跡と梅林をイメージした方がよろしいかと考えます。坂田城跡の歴史館のようなものを造れば町の象徴になると思います。是非、前向きに検討していただきたい。よろしく申し上げます。

委員：

皆様から坂田池公園、これを大事にしなければならないという意見が多かったように思います。私も同感であります。そんな中で立派に資料の絵ができていますけれども、1点だけ気になる場所があります。駐車場に入る橋ですが、新規に架けるのですか。

コンサル会社 オオバ：

A案ですけれども、これは、橋を架けてみてはどうかという案です。その理由として、幹線道路から直接出入りできるという面での安全性とバスの走行経路を考えた時にUターンしなくても横から入ってきて上部から出られるような形で考えており、また、駐車場を小さく造れるというメリットもあります。もし、可能であればと考えております。

委員：

交差点がすぐ近くにあることから、この案は無理ではないかと思われます。また、橋を架けるとなればお金もかかることですし、無くても出入りできる良い案があれば良いかなと思います。それから、先ほど委員からもお話がありました民地の問題です。民地の件については、当然、理解を伺っていないといけない事であり、こういう計画になって不利益なことにならないようお願いしたいと思ひます。

委員長：

この件につきましては、事務局を含めてこれからの検討課題ということになります。

委員：

産直交流施設ではなくなってしまった様な感じがするので、これは産直交流施設です。そうしないと事務局が困ってしまいます。ただ、「単なる産直交流施設ではありません」というのを自慢していきたいということになると思います。その中で新しいライフスタイルを横芝光町が発信するような産直交流施設であれば良いなと考えています。先ほど少し問題になっていましたが、分散配置というのは不思議だなと思ひていまして、色々な日本や世界的なところを見てきましたが、あまりイメージが分からないですね。コンセプトからは全然イメージが湧かないので、冬はどうす

るのだとか、それぞれの人がカフェを利用するだとか、そういう今後のソフトウェアのところやもう少し集約するのか分散するのかというところを検討いただければと思いました。あと、施設をコンテナで造るということに関してはすごく高いポイントになると思います。世界中にコンテナを使った色々な施設の写真集がありまして、ものすごくオシャレです。コンテナを使うということだけで人が呼び込める要素だと思います。最後、坂田城の話が出ましたけれども、櫓の話がありましたが、櫓の模型を作った方がいてとても良いものでした。坂田城のところには実現できませんけども、ここにちょっと高いものを建てて、あと模型を置ければ良いかと思います。より室町時代の歴史を想像できるような空間になるのではないかなと思われま

委員：

先ほど話をさせていただきましたが、産直だけではなくて交流部分を少し皆さんで考えていきましょう。先ほどお話されていたように、例えば、この施設を起点にして「栗山川で遊んでください」というチケットを売って町をPRすることもできます。あと、コンサル会社さんをお願いしたいのですが、できれば皆さん方の意見を付箋で前に張り出していただいて課題だとか発展系だとかという中で、いろんな言葉が飛び交うことで皆さん方、そこから連想されたり、自分の意見を整理したりすることができるのかなと思われま

委員長：

委員皆さんにおかれましては、金額においてもコンパクトで考えておりますので、そこを考慮し財政課長に発言をお願いします。

委員：

企画財政課長の立場で、まず企画の面でお話をさせていただきますと、先日、成田空港関連の講演会が開催され参加してまいりました。話が少しそれてしまいますけれども、講師は女性の方であり、成田空港圏の自治体というのは、「外国人をターゲットにするにはどのようにするべきか」とのお話でございました。日本人はとかく「カフェ」というとコーヒーショップなどを連想しがちですが、やはり、外国人の方にとって日本に来るということは、コーヒーを飲むのではなく、「日本茶を探し、好んで飲みに行くもの」という話をされました。その中で、東京から離れている自治体は、「東京都と喧嘩しても敵いませんよ。幾ら頑張ったって敵いません」ということでした。ただし、地元の強みは、「様々な食材があるため、それをもって勝負できる」ということもお話されておりました。まさに産直交流施設がこの内容に当てはまり、今まで当町にこのような大きな施設がありませんでしたが、これからの計画において非常に大事な要素になるものだと考えております。そうした中で、財政課の面が少し出てしまうのですが、前回の会議の議題の中で、やはり、駐車場の問題が重要であるのではないかと思います。土曜日、日曜日にスポーツ施設を利用した大きな大会が開催さ

れますと、路上駐車が出るくらい車両台数が多いという中で、先ほど駐車場確保が90台ほどというお話があったと思いますが、果たしてその確保数で対応できるのかという心配があります。また、委員と委員からお話がありましたけれども、食材の確保というものが一番ネックになってくる場所であると思います。将来的には横芝光インター周辺にも同様の施設をというお話が出ていた中で、そうした取り組みもかなり心配であります。そして、金額の面については、今後の委員会の中で算定されてくると思いますので、その中での検討材料だと考えております。以上です。

委員：

コンセプトについては、先ほど確認いただきましたけれども、私は、委員の意見と少し相反してしまうところがあります。旅行に出かけるとその名所、旧跡を見つけて見に行くようにしているのですが、もう一度行きたいかと聞かれた時に、「ただそこに櫓がある城跡ですよ」という看板が立っているだけでは二度と行かないというのが自分の実感です。だから、基本的に旧跡があるとすれば、「それを如何に見せるか。如何に興味を示させるか。」という努力がないと造ったとしてもただ施設がそこにあるだけになってしまうことが今までの私の経験から感じます。先ほど、財政課長からお話しされた件ですが、外国人は確かに「和」を好んでいまして、先日、東京の清澄公園という下町を訪れたのですが、日本人が普通に歩くところを外国人はわざわざ日本傘を日傘にして歩いていました。ですから、外国人の方が日本に来て求めているものは「和」であると実感しました。もし外国人を呼び入れたいとするならば、その人たちに如何にその施設がどのようなもので、なぜ貴重なのかというのを知らしめる努力が必要だし、もっと「和」のテイストを取り入れて外国人に興味を示させるというものが重要ではないかなと思います。それともう1点。先ほどから話しがだんだん変わってきて、「産直交流施設ではなくなっているのではないか」という危惧をされて委員に方向性を戻していただきました。基本構想では、産直交流施設での収入を主体として考えていたと思われまふ。今、皆さんからのお話を伺ってきた中では、どうも産直交流施設の産直は少し脇にあって、この施設を訪れた方々にくつろいでいただくというのが主体である方向に流れているような感じがします。だとすれば、「この施設を運営するための収入の主体は何なのか」を再度検討し直さないと事業運営自体が成り立たないような気がしております。考え方としては非常に良いと思いますが、基本構想時には産直で収益を上げるというのが主体だったので、その辺をもう一度、「収入の主体を何にするのか、レストランなのか、それとも産直なのか」というところを検討し直す必要があると思います。

委員長：

ありがとうございました。委員皆様のご意見をお聞きしましたが、産直だけに特化せず、交流を重点にした施設計画がよろしいのではとのこと。先ほど言いましたが、道の駅であれ、産直交流施設の基本的な輪郭、観光窓口、ふるさと移住という中で、このような施設が一番重要になろうかなと思います。いずれにせよ、産直だけに特化しないということでご理解をいただいた方がよろしいかなと思います。交流の面でのインバウンド観光、そうしたものもあるかなと思います。まとめでございますが、先ほど冒頭に申し上げましたが、副委員長から総括をよろしく願いいたします。

副委員長：

非常に大変な会議だと思いますが、いずれにしましても委員長はじめ、委員皆さんの色々な想いをこの会議にぶつけ、町の将来を考えながら今後の計画が進んでいくことを祈念しまして、まとめになりませんが挨拶とします。ありがとうございました。

委員長：

冒頭で申し上げましたが、これはあくまでも委員長、副委員長、オオバ、事務局の打合せはしておりません。委員皆さんの意見の交流の場でございますので、その点をご理解いただければと思います。以上を持ちまして議長を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

閉会 午後3時30分

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会名簿（変更分）
- ・ 「道の駅」等の組織及び25年度実績、道の駅のしくみと重点道の駅のメリット（林委員長作成）
- ・ 基本計画策定スケジュール（資料-1）
- ・ 主な意見と対応方針（資料-2）
- ・ コンセプトの見直し（資料-3）
- ・ 施設計画（資料-4）
- ・ 支援制度一覧表（別紙-1）
- ・ 駐車場規模の算定（別紙-2）